



桜とみかんといえやす様と(写真撮影・佐伯事務所)

いえやす様ご入店

そろそろ桜の季節を迎えようという日曜日、昼餉を兼ねて花の咲き具合を確かめるドライブに出た。老夫婦にみかんといういつもの陣容だ。桜にはいささか早過ぎた。そこで相模灘を見下ろすレストランに初めて立ち寄った。花曇りというより寒々しい

佐伯通信

2015年5月(平成27)
第27号
発行
佐伯泰英事務所
担当/新潮社
禁・無断転載

天気だったせいか、店内は静かだった。大きな窓から見下ろす、鈍色の相模灘の縮細鱗の海と三浦半島の景色が新鮮に映った。お勧めの海鮮カレーを美味しく賞味し、珈琲を飲みながら主人と話をし、私が先に車に戻った。性急な性格もある。みかんが車で待っているのだから先に出るのは、いつものことだ。
支払いを済ませた女房がにやにや笑いながら車に戻ってきた。「なんだ」と問う私に、「ご主人、店に入ってきたときからあなたがだれか分かっていただんですけど」と答えた。

佐伯泰英／近刊のお知らせ

10月	9月	8月	7月
8日発売予定	15日発売予定	4日発売予定	17日発売予定
『狐舞』 吉原裏同心 23	『飛躍』 交代寄合伊那衆異聞 23	『桜吹雪』 新・酔いどれ小籐次 3	『意次ノ妄』 居眠り磐音 江戸双紙 49

新装改訂版『完本 密命』全26冊を続々再刊行! 《祥伝社文庫》

6月12日 発売予定	『巻之四 刺客 斬月剣』	7月24日 発売予定	『巻之五 火頭 紅蓮剣』
---------------	--------------	---------------	--------------

大反響御礼

※新潮社 新潮文庫編集部
「古着屋総兵衛影始末」「新・古着屋総兵衛」担当

佐々木勉



大黒屋矢来町支店小僧、佐吉です。
3月の下旬に「新潮文庫百年特別書き下ろし」作品として、刊行させていただいた『古着屋総兵衛 初傳 光圀』の反響がすごいです。水戸藩主徳川光圀様とまだ六代目継承前の少年勝頼様のやりとりが冒頭にあって胸躍ります。やがて光圀様が隠居して、勝頼様が六代目となります。大義の面から徳川の行く末を思うご老公と忠節の面から徳川護持を志す勝頼様。それぞれの考えの違いが見事な筆致であぶり出されています。御店の方針と個人の思いの相違で板挟みになる奉公人の内面ようで、ぐっときます。ご老公は晩年、能を舞った直後にある家臣を手打ちにするという謎の事件を起こしているのですが、佐伯先生が実在の人物の事蹟の謎に挑んだというのも『光圀』の大きな魅力の一つです。

また、プレゼントの特製扇子のご応募は二万通を超え、佐吉の机はハガキで埋まりそうです。古着屋シリーズは未読という方も楽しめます。是非『光圀』をよろしく願います。あ、『異国の影』について書くスペースが……。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2015年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと発行いたします。
(株)新潮社、(株)文藝春秋、(株)講談社、(株)角川春樹事務所、(株)双葉社、(株)光文社

新聞広告などに顔を晒すことがあるから、時に読者の方に声を掛けられる。
「いえやす様の本は全巻お持ちだぞうよ」
「なにっ、いえやす様ってなんだ」と私。
「あのご主人、いえやす様、佐伯いえやす様の連発よ」
江戸時代を舞台にした時代小説を書くことを業にしていた。ために「神君家康様」には世話の成りつ放しだ。主人は、私の名のやすひでといえやすがこっちゃんになっての言い違えたのだらう。
「初めてのケースだな」

間違われた相手は神君家康、あるいは東照大権現と神様、歴史上の大人物だ。三文作家といっしょになるはずもない。だが、一時だけの「いえやす様」も悪くない。ほんとうに「佐伯家康」というペンネームに変えようかしら。
「頭が高い、頭を下げよ」
「ははあ」
春の悪戯かね、桜の花は未だ咲かず。この界限は意外と桜が咲くのが遅い土地なので

出版社からのお知らせ

鎌倉河岸捕物控
二十六の巻
大好評
発売中
(ハルキ時代小説文庫)

『閉門謹慎』
金座裏にとつて家族同然の定廻り同心・寺坂毅一郎に降りかかる難儀……政次たちは、寺坂を助けるため、そして北町奉行所の正義を守るために、立ち上がります。政次はもちろんですが、宗五郎の男つづりが素晴らしいです。

プレゼント企画実施中
「閉門謹慎」をお買い上げの方から、抽選で百名様に、「鎌倉河岸捕物控」オリジナル郵便切手を進呈いたします。
詳しくは帯裏をご覧ください。
角川春樹事務所